

令和7年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立千鳥小学校

Ⅰ 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・多くの児童が課題を解決しようと意欲的に取り組むことができた。特に、苦手と感じている児童に丁寧に教えたり説明したりして、協力して学習課題に取り組もうとする姿勢が見られた。
- ・タブレット端末を活用した問題（ドリルパーク等）にすすんで取り組む児童が多い。休み時間や学習の合間に、自主的に取り組む姿が見られた。

(2) 課題

- ・4年生は「図形」の領域、5年生は、「わり算・計算のきまり」「小数」「いろいろな形」「角の大きさ」「変わり方調べ」、6年生は「整数」「小数の計算」「多角形と円・合同」「体積」「多角形と円・合同」「円グラフや帯グラフ・平均」に課題が見られる。
- ・どの学年も、「図形」領域を課題としていることが分かった。図形の定義や性質の正しい理解、性格に図形を描くことに十分な時間を確保することが必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

※ ◎…目標値を上回った ○…目標値と同程度 △…目標値を下回った

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第4学年	◎		
第5学年	◎	△ (第4学年時)	
第6学年	○	◎ (第5学年時)	○ (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年（4年生）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・全国・区・目標値の全てを上回った。 ・基礎の問題の定着が課題である。 ・図形領域の理解に課題が残る。	・全国・区・目標値の全てを上回った。特に活用の問題で達成が見られた。	・学習した内容と生活場面で生かし方が結び付けられず、学習の広がりをもてない児童が多い。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・知識・技能において課題が見られる。 ・角の大きさの測定、わり算と計算のきまり、小数の計算が十分に定着していない。	・ひし形の作図が十分に定着していない。 ・数量関係を、割合を使って説明する問題の正答率が低く、割合の考え方が十分	・考え方の説明に対して、積極的に伝えようとする児童が多い。 ・答えが合っていればよいと考え、過程を疎かにする児童

・多角形と円・合同、円グラフや帯グラフ・平均が十分に定着しているとは言えない。	に定着していない。	がいる。
---	-----------	------

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・加法、減法で、指を使って数えている児童には、授業と家庭学習を併用して繰り返し計算問題に取り組み、正確に計算する力を培う。また、タブレットドリル等を活用して復習を繰り返し、基礎基本的な学力の定着を図る。 ・2位数の減法について、繰り下がりの場面ですまづきが多く、指を使って数えている児童には、家庭学習など保護者にも協力を求め、定着を促していく。 ・時刻と時間で、○分前、○分後、といった時刻を求める問題につまづきが見られるので、日常生活の中で、「あと何分」「○分後は何時何分」の意識を育てる。折に触れて時計を読ませ、時刻や時間に関する感覚を身に付けさせる。	・文章問題では、正確に問題把握ができない児童もいるため、場面絵を用いながら思考させる。意味を理解した上で立式することができるようになり、問題文を最後までよく読むこと、何算になるか判断するためにキーワードを見付けたりすることが大切であることを指導する。 ・図を使ったりブロック操作を活動に取り入れたり、具体物を用いて直接比較や間接比較をさせたりすることで、数の構成や長さ・体積についての感覚を体得させる。 ・計算方法や仕組みを説明できない児童に対して、授業中に、友達や全体に向けて説明する場面を設定し、自分の考えをもち、表現する経験を積ませる。 ・文章の問題から、式を立てることが苦手な児童に対して、問題文を最後までよく読むこと、何算になるか判断するためにキーワードを見付けることが大切であることを指導する。図を使って、立式する習慣を身に付けさせる。	・「次の問題を解きたい。」と意欲的に取り組む児童が多いが、粘り強く解決まで取り組むことができない児童もいるため、加法や減法等の式の表し方や計算の仕方を考えた課程や結果を振り返り、その良さや楽しさを感じながら学べるようにする。 ・日常生活の中にある加法や減法、身の回りにあるものの面積や体積、長さ等に関心をもち、算数の学習と日常生活の繋がりに気付かせ、生活に役立てることを知り、主体的に取り組む態度を養う。 ・学習の進み具合や定着度に個人差があるので、習熟度別にクラスを分けて一人一人に合った指導を行い、「わかる」「できる」実感をもたせる。また、具体物を用いた導入や実際に操作させることで体験的な授業を展開し、より主体的な態度を育てていく。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・授業の初めにフラッシュカードを活用したり、マス計算を解いたりさせること	・見通しがもてるように、教科書の挿絵を使って、どんな場面か話し合わせたり、簡単な	・学習したことを、実際に他教科や生活の場面で活用し、学習したことの意義を

で、加法、減法、九九についての定着を深める。家庭学習でも協力を促し、繰り返し取り組めるようにする。 ・長さや時間などの学習では、身近なものを測量する活動を取り入れ、児童が量感を養うことができるようにする。また、単位換算を繰り返し復習し、確実に定着させる。 ・小数の大きさ、分数の分子の数の性質を理解させるために、復習問題から取り組むなど授業展開の工夫をして、基礎基本の定着を図る。 ・既習の知識及び技能と結びつけながら新しい学習にも生かせる技能となるように指導していく。	絵や図を描かせたりすることで、どんな演算になるか考えられるようにする。 ・正しく立式できるように、文章題に書かれている数字や演算に必要なキーワードに着目させたり、図で表す機会を増やしたりする。 ・解き方を全体に伝える場面を設定し、言葉や図、式などを用いて考え方を伝え合う場を設定する。その際、ノートや黒板だけでなく、ICT 機器の活用も効果的に実施する。 ・数についての感覚を一層豊かにするとともに数の大きさや構造に着目して表し方を考え、日常生活に生かせるようにする。	実感させる。 ・意欲的にノートをまとめている児童が多いので、授業の中では、自分の考えをまとめたり、友達の考えを取り入れたりする時間を確保し、意欲が継続するようにする。 ・算数を学ぶことの価値を実感させ、新たに主体的に算数に関わる態度を育むことに繋げていく。
--	---	--

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・基礎の定着だけでなく、応用問題に取り組む時間を設け、基礎を活用して解く問題の経験を積ませる。 ・角の大きさの測り方の定着を図るために、分度器の使い方や目盛りの読み取り方を復習するとともに、いろいろな角の大きさを測る問題に取り組む機会を設ける。	・図形の定義や性質を再度理解させるとともに、作図方法が適切かを判断するために話し合わせたり、できる限り多くの問題を解いたりさせる。 ・割合の計算問題だけではなく、文章問題や応用問題にも取り組ませ、様々な角度から割合を理解させていく。また、日常生活や社会のニュースなどで、割合が使われている場面を探し、その意味を考えさせたり、説明させたりすることで思考力や表現力を養っていく。 ・自力解決場面では、自分の考えを式や言葉を使って表す活動を毎時間取り入れる。	・ペアやグループで自分の考えを伝える場面をつくることで、互いのよさを認め合ったり考えを修正したりして、自ら学びを広げようとする態度を育てる。 ・身近な生活場面を想起させて、課題に取り組ませることで、学習したことを生活や学習に活用できるようにする。 ・問題を多面的に捉えたり、複数の考えからより良いものを選択したりしながら、算数の面白さやよさに気付かせ、学習したことを生活や学習に活用する態度を養っていく。

	・ 図、式、言葉などの多様な表現方法を目的に応じて使い分けることができるように、考えを共有したり発表したりする時間を必ず確保する。	
--	---	--